

## 太陽 ASG 拝啓社長殿

経営者のための財務情報 第 433 号

この資料は全部お読みいただいて 85 秒です。

今回のテーマ： 2007 年の景況感と金利・為替・経済への展望

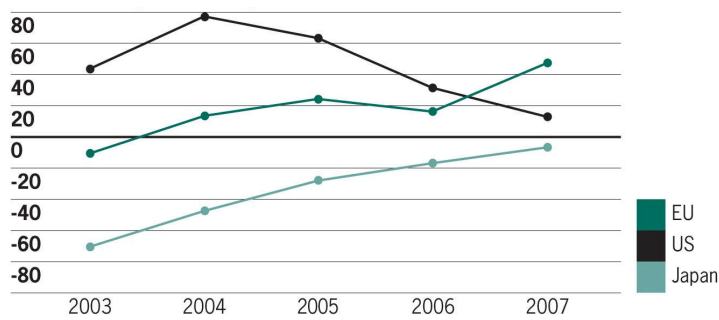
### 景況感は-5%でほぼ回復

グラント・ソントンが昨年末に実施した世界の中堅企業（従業員数 100 人～750 人）経営者の意識調査における 2007 年の日本の景況感は-5%で、過去 5 年で最も明るい展望となりました。この景況感は、調査参加 32 カ国中最下位ですが、大都市経済圏ではすでに+11.2%と楽観論が悲観論を上回っており、経済の復調が覗えます。地方の景況感は-14.9%と落差がありますが、日銀の金利政策もその狭間で揺れたものでしょう。

### 先進経済圏の景況感と為替

米国、EU、日本 3 大経済圏の景況感を比較しますと、EU は 2003 年以来一貫して上昇カーブを続けています。日本は 2003 年の-71%からスタートし、マイナスですが上昇カーブは EU とほぼ同じです。これに対して米国は、2004 年をピークに景況感が低落しました。この結果、ユーロは対円でも対ドルでも、上昇を続けています。ユーロは 2003 年比対円で 1.39 倍、対ドルで 1.36 倍と上昇しました。円とドルでは現在、大方の予想と異なり円安に振れており、原因は日米の金利差によるとされています。

### 3 大経済圏景況感 年度別推移



### 為替変動の要因

現在のユーロが割高であるとして、ここまでユーロ高になったのは、超低金利の円などを調達し高金利の通貨で運用する「キャリートレード」が主原因であるとされます（2007.1.19 日経金融新聞）。現在、為替は金利を軸に動いていますが、中長期視点に立てば、ファンダメンタルズに基づく場面もあります。なんらか大きな行き過ぎがあれば、円安を修正するきっかけが発生すると見られます。

### 米ドル・ユーロ・円 為替相場 TTB (単位：円)

	2003 年平均	2004 年平均	2005 年平均	2006 年平均	2007 年年初
米ドル	116	108	110	116	119
ユーロ	113	134	137	146	157
ユーロ/ドル	0.97ドル	1.24ドル	1.25ドル	1.26ドル	1.32ドル

(三菱 UFJ リサーチ&amp;コンサルティング 為替相場より)

### お見逃しなく！

### 注目される為替反転のキッカケとその影響

キャリートレードの温床とも言える超低金利が修正されるに従い、ユーロ高の対円・対ドル調整と円の対ドル調整が行われる可能性が高いのはいうまでもありません。日銀が検討する利上げ問題も、まさにその矛盾点に問題意識があります。問題は、そのきっかけはなにか、いつ発生するか。それが株価、企業業績、消費に与える影響はどう展開するか、予断を許さない状況が続きます。